

平成26年度第1回岐阜県図書館協議会議事録

- 1 開催日時 平成26年8月1日(金) 午後1時30分～午後3時30分
- 2 開催場所 岐阜市宇佐4丁目2-1
岐阜県図書館 2階 特別会議室

3 会議日程

- ・館長挨拶
- ・社会教育文化課長挨拶
- ・委員長挨拶
- ・議 題

○ 協議事項

- (1)平成25年度岐阜県図書館「図書館評価」報告書について
- (2)岐阜県図書館のサインの見直しについて

○ 報告事項

- (1)「岐阜県図書館の運営方針 平成26年度～平成30年度」
- (2) 岐阜県図書館平成26年度アクションプラン
- (3) ぎふけん・おすすめの1冊コンクールについて
- (4) 第20回児童生徒地図作品展の開催について
- (5) 岐阜県図書館創立80周年記念シンポジウムの開催について
- (6) 国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスについて
- (7) 「楽天いどうとしょかん」の運行実績(5・6月分)について

○ 参考資料

- (1) 図書館要覧
- (2) 岐阜県図書館協力通信
- (3) 岐阜県図書館広報紙(4・5月、6・7月)
- (4) マナーアップキャンペーンについて

4 委員の現在数 10名

5 出席委員等の氏名及び人数 8名

委員長	田村 弘司
副委員長	薬袋 秀樹
委員	小川 和彦
委員	石黒 啓子
委員	梶井 芳景
委員	春日井 一朗
委員	金森 さちこ
委員	倉地 幸子

事務局出席者

大澤館長、野田副館長、飯盛総務課長、堀江企画課長
杉山サービス課長、田中課長補佐、村田係長 7名

教育委員会出席者

荻山社会教育文化課長

渡辺主査

2名

傍聴者

2名

6 欠出席委員の氏名及び人数 2名

委員 澤田 美幸

委員 福士 秀人

7 議事の経過及び結果

[午後1時30分、総務課長の司会進行により、協議会の開会に先立ち、館長と社会教育文化課長から挨拶を行った]

(館長挨拶要旨)

今年度新たに委員をお願いした10人の皆様には、図書館の運営及び事業にご理解とご支援をいただくようよろしくお願いいたします。

さて、平成26年度は、これまで本協議会でもご意見をいただき策定した、本館の新たな「5か年間の運営方針」のもとで活動する初年にあたる。運営方針の策定・公表については、平成24年12月に告示された「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」でも主な改正内容として位置付けられており、それを実践したものとなっている。また岐阜県教育委員会は、今年度本県の教育推進の指針として新たな5か年計画の「第2次岐阜県教育ビジョン」を策定した。その中で「読書活動の推進」、「ふるさと教育」、「生涯学習」等において県図書館の果たす役割について記載されている。このことについては、本館運営方針でも位置づけており、その具現化にも努めてまいりたい。

今年度は、本館が創立80周年を迎えるのでその記念事業の企画運営、また来年度本館が事務局として開催予定の日本図書館協会主催の全国大会である「全国公共図書館研究集会（児童・青少年部門）」の企画という例年になくない大きな業務があり、通常業務に加え職員は多忙を極めた状況であるため、館長としては職員の健康管理にも十分留意する必要があると考えている。

本日は、後の趣旨説明の中で詳しく述べるが、本館の昨年度のアクションプランに基づく「図書館評価報告書」と「岐阜県図書館のサインの見直し」という2つのテーマについて、ご協議をいただきたい。

また、協議事項1の資料の最後に、平成21年度から25年度までの5か年間の図書

館改革方針の総括を付けてあるが、これについては各年度毎に評価をいただいたものを集約したものであるため、協議事項ではなく報告事項とさせていただきます。

利用者及び住民の要望を十分に反映した図書館運営となるよう、委員の皆様のご意見やご意見をどうぞよろしくお願いしたい。

(社会教育文化課長挨拶要旨)

岐阜県図書館の使命は、このパンフレットにある、「岐阜のひとづくり、ものづくり、まちづくりを支えます」を合言葉に、資料の収集・保存・提供を通じて県民の生涯学習と個人や地域の課題解決、県の中核図書館として市町村図書館のサービス向上を支援していくことに取り組むことである。

岐阜県教育委員会では、この3月に「第2次岐阜県教育ビジョン」を策定した。この中で高い志と、グローバルな視野を持って夢に挑戦し、家庭・地域・職場で豊かな人間関係を築き、地域社会の一員として考え行動できる地域社会人の育成を理念に施策を進めることとしている。その中で読書活動の推進と図書館の役割も位置づけられているところである。また、全ての子供があらゆる機会と場所において自主的に読書活動ができるよう、環境整備を積極的に推進するための子供の読書活動推進計画を策定している。県では平成22年3月に計画を策定し5年を経過することから、今年度末までに新たな計画を策定する予定である。

現在、家庭・地域・学校・図書館で、それぞれの立場で読書活動の推進にご尽力いただいている。これまで以上に子供が読書活動に親しめるよう、続けること、広めること、新しく取り組むことを明らかにしていきたい。

[各委員が配席順に自己紹介]

[事務局から本日の出席者について、委員10名中8名の委員が出席しており、定足数に達している旨を報告した。]

[事務局から、協議会には委員長及び副委員長各1名を置き、委員長が当協議会の議長になることを説明し、委員長が選出されるまで、田村委員が仮議長に選出され、進行を務めた。その後委員の互選により田村委員が委員長に、薬袋委員が副委員長に選出された。]

[委員長は、就任挨拶後、2名の傍聴者を承認し、入室を許可した。]

(委員長)

[委員長は、議題の協議事項である、平成25年度岐阜県図書館「図書館評価」報告書について、事務局の説明を求めた。]

(事務局)

[事務局から協議事項(1)「平成25年度岐阜県図書館「図書館評価」報告書」について説明]

館長【提案趣旨説明】

本日の協議事項1・2でご協議いただくことについて、まとめて提案趣旨を説明したい。

協議していただきたいことの第1は、「平成25年度の岐阜県図書館「図書館評価」報告書について」である。平成25年度の「図書館評価」については、昨年度2月に25年度の(活動計画である)アクションプランの自己評価シート及びアンケート調査結果に基づき中間報告という形で提案し協議いただいたが、今回正式な25年度「図書館評価」を作成したので、それに対する意見をいただきたい。

協議していただきたいことの第2は、「岐阜県図書館のサインの見直しについて」である。本館は、平成7年の7月7日にそれまで岐阜公園内にあった図書館が当地に移転して新館としてオープンした。当時、全国の図書館にはない何か特徴を持った図書館にするということで、地図を大々的に収集した「世界分布図センター」を併設する形で開館した。しかし、財政難から平成22年3月31日に分布図センターは閉鎖となり、そうした経緯から、館内表示には開館当時のものが残っており、閉鎖にともない施設名を変更したため、それを自作で上書きしたりといった状態で、新しいわりに見苦しい部分が散見される表示となっている。また、昨年度委員から駐車場に車を停めたが、帰りにどこに停めたのか迷ってしまったといった指摘をいただいたように、館内案内がわかりにくいという意見もいただいている。

来年度、開館20周年を迎えるにあたり、来館者の皆様にとってより利用しやすい図書館にするために、案内表示を見直したいと考え、今年度のアクションプランにも位置づけて取り組んでいきたい。本日は、この協議事項のために、わざわざ早めにご足労いただき、実際館内をご覧いただいているので、見直しにあたって忌憚のない意見をいただきたい。

以上、二つの事項について。協議をよろしくお願ひしたい。

堀江課長

【協議事項(1)平成25年度「図書館評価」について】

県図書館では、平成21年度に改革方針を立て、以降毎年度、その実現に向けたアクションプランを策定し、その実施状況を自己点検の上、外部評価として協議会でご意見を頂いてきた。

アクションプラン三本柱、広域性の発揮、専門性の発揮、経営の視点に沿って説明する。

1. 広域性の発揮

(1) 市町村図書館等のバックアップと利用促進について

(相互貸借)

- ・相互貸借のうち、東海北陸地区の各県立図書館からの借受け冊数は2,844冊で、目標値2,400冊を上回った。
- ・他方、県図書館からの貸出し冊数は12,406冊で、昨年度と比べ1割ほど減少し、目標値を下回った。これは、専門性の高い資料の収集を継続する中で、利用者ニーズの高い資料の割合が相対的に減少したためと思われる。今後、県図書館の有する専門性の高い資料がより有効に活用いただけるよう、PRに一層力を入れて取り組む必要がある。

(県内図書館職員向け研修の充実)

- ・県内図書館職員向けの研修会は、参加者が大幅に増加し、満足度も98.6%と高く、ニーズに即した研修が実施できたものと考えている。
- ・地区別意見交換会では、職員の資質向上への支援の要望が多いことから、職員向け研修の一層の充実が求められている。

(2) 大学図書館・学校図書館との連携について

(大学との相互貸借、連携事業)

- ・1つ目の大学図書館との相互貸借は、未だ利用が少ないことから、協定を結んでいる岐阜大学等と協力し、PRを強化する必要があると考えている。

(小中学校等へのセット文庫貸出)

- ・2つ目の、小中学校や特別支援学校へのセット文庫貸出は、やや増加したものの、目標値を下回った。今後とも、学校現場の声を十分聴き取り、セット内容に反映させる必要があると考えている。
- ・昨年度の協議会において、セット文庫以外の学校図書館支援、研修も含めた多くの方策で支援する方法はないかのご意見をいただいた。県図書館では、学校の施設見学やインターンシップの受入、学校司書・教職員の研修受入れなどの支援に取り組んでいるが、今後とも学校現場の意向をよく聴いて、要望に出来るだけ添っていきけるよう努めていく。
- ・高等学校からの専門書を中心とした図書購入リクエストに応える体制を整えたので、本年度から定期的に高等学校へメールで案内を送るなどして、その利用促進を図っていく。

2. 専門性の発揮について

(1) 当館職員の専門性の向上について

(課題解決に役立つパスファインダーの作成等)

- ・県民の様々な課題について、図書館での調べ方を案内する「パスファインダー」を職員一人1件以上作成した。目標値を若干下回ったが、課題解決型図書館を目指す中で、

身近な課題解決をテーマに取り上げるとともに、関連資料の充実にも努めた。

(2) 専門性の高い資料の収集と提供について

(社会科学関係図書の分類の細分化)

- ・社会科学分野5, 000冊の分類を4桁から5桁へ細分化し、利用しやすくした。

(専門性の高い資料の収集に対する客観的評価方法の検討)

- ・県美術館学芸員の協力で、芸術分野(7類)の資料を評価の上、閲覧室側の開架に置くべきか、裏の倉庫にある閉架に置くべきかの見直しを図った。この開架閉架の見直しについては、昨年度の協議会において、職員の知識を総動員して取り組んでほしいとのご意見をいただいた。今後とも、専門家による蔵書評価を計画するとともに、利用頻度を見ながら、毎月の図書整理日に、開架閉架の見直しに努めたいと考えている。

(児童研究室の利活用促進)

- ・児童図書研究室の入室者は、前年度に比べ大幅に増加した。今後も継続して、児童図書研究室を勉強会等で活用していただけるよう働きかけていく。また、前回の協議会の中で、岐阜県図書館は児童研究室を持ち、児童サービスを一つの柱としていることから、ぜひ外部から講師を仰ぐだけでなく、職員が講師を務められるような児童図書館員の育成にも力を入れてほしいというご意見をいただいている。児童サービス担当者には、日本図書館協会が主催する「児童図書館員養成講座」を初めとして様々な研修会に参加させるなどして、力量を高めるようにしている。また研修で学んだことを、市町村図書館職員の研修会の折に、伝えるようにしていく。

(障がい者サービスの普及)

- ・県内の障がい者サービス実施館は34館中19館で、目標値を下回っている。今後とも、増加に向けたPRの強化やさらなる支援に取り組む必要がある。

(データベースの作成および資料のデジタル化)

- ・岐阜県関係情報のデータベースの作成および郷土資料等のデジタル化は、旧市町村史目次について、99市町村から現在の42市町村への再編成を実施完了した。地図資料については約400点をデジタル化し、利用者に提供できるようにした。今後とも、郷土資料のデジタル化の推進とともに、利用しやすいデジタルコンテンツの整備を進める必要がある。

(3) 県行政機関との連携について

(県政に関するテーマ展示等)

- ・県政に関するテーマ展示等は、「岐阜県ふるさと教育展」の他に、テーマ展示「地域を洪水から守ろう」等を実施するとともに、関連するブックリストも作成した。
- ・県政に係るパンフレットの設置は、職業・資格に関する図書を置いた「夢チャレンジャー」や「県行政情報コーナー」のパンフレット配置など、県行政と所蔵資料を関連付けてPRした。

(県職員向け利用案内の作成・配布)

- ・ 県職員向け利用案内の作成・配布は、県職員へのPRに努めた結果、県行政機関(県職員)からのレファレンス件数は、前年度から大幅に増加し、目標値を上回った。
- ・ 今後とも、県が進める「清流の国ぎふ」づくりや、隣接する岐阜県美術館の企画展等との連携を強化し、県政情報を効果的に発信する場としての役割を果たしていきたい。

3. 経営の視点について

(県職員向け利用案内の作成・配布)

- ・ 1つ目の、自己評価及び外部評価は、館内の自己評価後、県図書館協議会に評価いただく仕組みとし、毎年度行いその結果を公表し、業務の見直しを図っている。

(AVサービスの見直し)

- ・ 2つ目のAVサービスの見直しについては、郷土資料に重点を置いた資料購入を行った。平成27年6月開館予定の岐阜市中央図書館新館で、AV資料を充実させる計画があることから、同館とAVサービスについても役割分担を協議する必要がある。

(雑誌スポンサー制度の活用 前回協議会の回答)

- ・ 「雑誌スポンサー制度」は、経費削減のためにも取り組んだが、制度の運用が煩雑で、宣伝効果が表れにくいことから、スポンサー希望者が減り、年度末においてゼロになった。昨年度の協議会において、廃止を含めて検討してはとのご意見もいただいたが、この制度については、予算の有効活用の視点から存続させることを前提にスポンサー目線で制度の仕組み全体を見直し、その活用を図っていききたいと考えている。

- ・ 次に、各数値目標とその達成度をまとめたものについて報告する。

(広域性の発揮について)

県内図書館職員向け研修の満足度が高い一方、その他の項目は達成率が8割前後と、引き続き努力が必要であり、総合評価は「B」とした。

(専門性の発揮について)

レファレンス数は、目標数値に届かないものの、過去5年間では最も多くのレファレンスを受け付けたほか、県行政機関からのレファレンスも増えており、また満足度も高くなっているなど、達成率は他の分野に比べ高い状況である。

総合評価は、同じく「B」とした。

(経営の視点について)

利用者目線で、親切・丁寧な対応を心掛けた結果、窓口サービスの満足度が高まった一方、雑誌スポンサー制度については、抜本的な制度の見直しが必要と考え、本年度中に見直しを行っていききたいと考えており、総合評価は、同じく「B」とした。

以上で、数字目標と実績等についての報告を終わる。

なお、これまでの報告の中で、昨年度、第2回協議会で、委員の皆様からいただいたご意見についての回答も含めさせていただいた。ほかにも、貴重なご意見を頂戴して

いたので、この場で回答する。

- ・本を選ぶ参考とするために、県図書館のホームページで書評をアップしてほしいという意見について

(回答) 購入した大量の図書を職員が読み、書評を書くことは、大変難しいので、ご理解をいただきたい。なお、当館のホームページの新着図書をクリックすると資料の一覧が出てくる。資料名の隣に、国立情報学研究所が運営しているWebcat-Plusへのリンクが表示されている。目次や内容について記載されており、利用者に活用していただいている。

以上の内容について、後ほど、本協議会委員の皆様からご意見をいただきたい。

<平成21~25年度 岐阜県図書館「図書館評価」総括>

平成21年度以降、「岐阜県図書館改革方針」に基づく、5年間の取組の概要をまとめた。

この図書館評価の総括については、先ほど館長が申したように、協議内容としてではなく、報告事項とさせていただく。

13頁に、これまので取組と成果について、広域性の発揮、専門性の発揮、経営の視点からまとめた。時間の都合で、これまでの5年間の取組から見えてきた、次の5年間の取り組むべき課題について説明する。

課題1 課題解決の支援を柱とする図書館運営

- ・専門性の高い資料、特色ある資料の活用の推進
- ・レファレンスサービスの質的向上
- ・課題解決を担う県図書館職員の資質向上 を図ることで。

課題2 市町村図書館等の支援と連携強化

- ・県内外の図書館を結ぶ相互貸借ネットワークの拡充
- ・市町村図書館等職員の資質向上に向けた支援の強化
- ・図書館未設置町村(8町村)の解消に向けた取り組みの強化

こうした課題を踏まえ、平成26年度から30年度を期間とする新たな運営方針を立て、本年度から新たに取組を始めたところである。以上で、図書館評価総括についての報告を終わる。

(委員長)

[委員長は、議題1の平成25年度岐阜県図書館「図書館評価」報告書について、広域性、専門性、経営の視点から委員の発言を求めた。]

【広域性の発揮について】

(小川委員)

相互貸借の全体の冊数のジャンル別の内訳があれば教えて欲しい。

(事務局)

冊数のみの統計しかないので、内訳はお示しできない。

(石黒委員)

学校図書館との連携で小中学校支援のセット文庫についてPRの仕方はどうされているのか。

(事務局)

図書館のホームページに学校関係者のコーナーがあり、セット文庫について具体的に内容も記載している。学校職員の研修会参加においてもPRを実施している。

(石黒委員)

今以上に利用を活発化せざる方法について情報を収集しているのか。今のセット文庫のままでは同じような利用傾向となってしまう。もっと詳しい資料を揃えて欲しい。

(事務局)

これまでは、小中学校を対象にセット文庫をPRしてきた。セット文庫を小中学校に提供してきた理由は、市町村図書館にセット文庫の取組を引き継いで実施してほしいとの思いでモデル的に実施してきた。拡大策として、高等学校に対するセット文庫の貸出を県図書館が主体となって今年度から実施している。

(梶井委員)

小中学校のセット文庫貸出は、市町村図書館が主体で実施すべきだ。まず、資料の充実が市町図書館へ相談されたいと利用者をお願いしてきた。県にあまり迷惑をかけるものではない。

相互貸借について、県からの貸出が予定冊数を下回ったのは、ここ数年の資料費の減少が影響している。市町図書館としては県の蔵書能力が頼みであり、県の蔵書が弱くなってしまったのが原因だ。資料構成が大幅に収集できるよう予算増を求めたい。15,000冊の貸出は、日本図書館協会の資料では全国で28位で中位の下となっている。

(事務局)

借りたい本がたくさんあれば相互貸借が伸びると理解している。県図書館が実施してきたことは、専門性の高く希少性の高い資料を中心に収集してきたが、人気の作家の作品についてはニーズに応えられていないと理解している。

(倉地委員)

相互貸借で感じたことであるが、岐阜県図書館で、沖縄に関する資料を探した時、歴史、食物、フードが点々と配架されていた。沖縄県の現地図書館で閲覧してきたが、現地ならではの資料がたくさんあった。相互貸借をさらに発展させるためにタイトルだけで他県検索しても内容が分りづらく借りにくい。できれば、岐阜県には他県の資料を教えていただければ、ありがたい。

(事務局)

利用者がどのような資料を求めておられるのか良く聞きとって、幅広い資料提供ができるよう努めていきたい。

県図書館では、全国の図書館を一括して検索できる仕組みをつくった業者と協力したサービスを模索しているところである。

【専門性の発揮について】

(梶井委員)

3類の細分化は必ずしも専門性の発揮に当たるのかどうか。分野の量、使いやすさを考えていけば、分野に応じて分類の細分化は日常的に行っていけばよい。見出しによる細分化も含めて。基本的にはNDCにあわせて分類するのではなく、利用者側に立ってNDCを活用する立場をとることが専門性の発揮につながる。

(金森委員)

専門性の発揮について過去5年では、平成24年度が目標数値を下がってしまったが、平成25年度は県行政との連携うまくいっていると思っている。レファレンス件数、満足度も上がっておりPRの仕方がうまかった。県行政に関しては、少子化、ワークライフバランスといったコーナーであれば利用者も活用しやすい。

石黒委員の意見に関して、セット文庫は利用者目線からすると、県図書館から学校へお知らせ文書が届いており、学校へのアクションは起こしてもらっているのでPRは十分できている。学校側の利用はカリキュラムが同じなので同時期に重なり数値目標が上がらないのはやむを得ないと考えている。

(倉地委員)

専門性が高いということは、利用者からすると資料が高価である、希少価値がある、或いは分類の細分化ということを理解しがちだが、利用者がいかに利用しやすいかどうか、すぐ探せるかという観点で配慮されたい。県図書館では探す本がどこにあるのか分かりにくいことがある。一般書店は、お客様が手に取って購入していただけるような方

法が上手だ。欲しい本がすぐわかること、分類・展示方法についても司書の質の高さを感じられる図書館とされるよう期待する。

(薬袋委員)

NDCは一般には知られていない。基本的には、利用者が図書館の開架室の入口でNDC等の紙の資料を用いて本を探せるようにしておくことが大切である。よく利用される分類番号の一覧表は、比較的簡単にできる。

岐阜県図書館での分類の細分化の話聞いてから、他の図書館の様子を注意してみているが、最近つくられた図書館では、比較的細かく分類している。社会科学分野の細分化が妥当かと思うが、利用者が細かい分類番号の資料を探そうになると、分類番号も細分化する必要性が将来的に生じる。

(事務局)

使いやすい書架の作成は課題として捉えている。

さらなる細分化については、来年度以降の課題として取り組んでいく。

【経営の視点】

(梶井委員)

岐阜市図書館の開館が、岐阜県図書館の運営に与える影響や必要なくなる業務が生じるが、新岐阜市図書館の詳細な情報を持っていないので、県図書館としての対応を教えて欲しい。

(事務局)

岐阜市の図書館機能検討委員会に参加しており、いろいろ報告をいただいている。県と市の担当レベルでの打合せや各分野での意見交換会を2ヶ月に1回程度継続して行っている。

岐阜市は、市民に密着した使いやすい図書館、生涯学習に役立つ図書館を目指し、子どもの読書の支援、学校支援に力を入れている。サービス計画で色々な事業案が提案されているが、運営体制や職員体制の詳細はまだ見えてこない状況である。

県図書館は市の図書館機能も担ってきたが、岐阜市の新館が開館し、市立図書館の機能が充実することで市町村図書館との連携など県本来の業務に専念することができると期待している。

(薬袋委員)

岐阜市図書館との連携協力について意見を述べたい。おそらく資料費も岐阜市図書館の方が多くなると思うし、一般市民向けの資料も多くなる。そうすると、県図書館では、

レファレンスやパスファインダーの作業のためにも岐阜市図書館の資料を活用できるよう市との連携協力が重要となる。岐阜市図書館の書架にある本を自由に使わせてもらう必要がある。県と市の豊富な資料を使って質の良いサービスをしていただきたい。

また、本来の県図書館の上手な使い方をはっきり利用者に伝えるとよい。

[委員長は一旦質疑を打ち切り、協議事項2「岐阜県図書館のサインの見直しについて」事務局に説明を求めた。]

(事務局)

[事務局から協議事項(2)「岐阜県図書館のサインの見直し」について説明]

堀江課長

今回のサインの見直しは、昨年度の図書館評価において、館内表示等が利用者にとって分かりにくい点があるとの指摘を機に、取り組むことにした。確かに、現状と合わないサインも一部にあり、利用される方々に、より快適な利用空間を提供するという観点から、新たな運営方針やアクションプランにも位置づけ、見直し作業に取り組んでいきたい。

昨年度の協議会においても、ホームページに盛り込まれている情報を、情報の格差がないように館内でも掲示するとよいというご意見もいただいている。ホームページに掲載している催し物案内や図書館の利用案内、相互貸借に関する案内などは、館内にも掲示し、周知を図っているが、いろいろな場所に掲示されているため、かえってわかりにくいということもある。この点についても、館内サインの見直しの中で、併わせて検討していく。

取組内容としては、現状把握など以下の点に取り組んでいく。

- ・作業内容の検討及びタイムスケジュールの作成
- ・経費見積、予算要求

それでは、本日、館内をご覧いただいたので、館内表示、掲示物についてお気づきの点について、ご意見を伺いたい。

(委員長)

[委員長は、議題2「岐阜県図書館のサインの見直しについて」委員の発言を求めた。]

(出席委員全員が発言し、アンケート用紙を事務局に提出した。)

(今回の意見を集約し第2回岐阜県図書館協議会に諮っていく。)

(委員長)

[委員長は協議事項の審議の終了を宣言し、各委員の意見を参考に事業を進められるよう事務局に依頼し、自由発言の機会を求めた。]

【自由意見】

(倉地委員)

図書館は建物の中だけでなく屋外も含めて快適な環境を望みたい。幼児同伴の親からは、県図書館の敷地内は安全な場所であるので、夏には「せせらぎ」の水路に水があった方が良いという声も出ている。予算的に厳しいだろうが、水車など設置して利用者を図書館にアプローチさせる工夫もお願いしたい。

(梶井委員)

屋外読書園として設置した水路は、子供が入る場所として設計した訳ではなく、逆に本を持ち出されないうための空気の窓として設置したものである。

(薬袋委員)

県図書館からの相互貸借について、県が資料費予算を増額しているので、市町村図書館と住民の皆さんで県図書館の本を借りようという運動に取り組んでいただきたい。高等学校からのリクエストに対する図書購入は非常によい仕事だ。こういったことが影響して市町村図書館の学校支援の取り組みが改善されると良いと思う。最後に県行政機関との連携の成果があがってきたことに感謝したい。

(倉地委員)

傍聴者の申請締切が7月27日までとなっていたが、本日の傍聴者へは何日に許可したか教えてほしい。併せて、当日、傍聴申請したい者は許可されるかもお聞きしたい。

(事務局)

傍聴許可書は7月30日にFAX送信し、併せて許可書原本を郵送した。
ホームページで受付期間を明示してあるため、当日の傍聴申請はできない。

(石黒委員)

課題解決に役立つパスファインダーについて、健康医療情報コーナーをみると通常の市町村図書館にない医学関係の本が揃っている。一方、パスファインダーを見ると個別資料はそろっていたが、医学の4類のところを詳しく揃えていただければ病気の専門的なものが揃うことになるので、なるべく早く揃えただけるとありがたい。

(委員長)

【委員長は自由発言の終了を宣言し、各委員の意見を参考に事業を進められるよう事務局に依頼し、その他報告事項の説明を一括して求めた。】

(事務局)

[事務局から報告事項について説明]

資料3 「岐阜県図書館の運営方針 平成26年度～平成30年度」

資料4 岐阜県図書館平成26年度アクションプラン

資料5 ぎふけん・おすすめの1冊コンクールについて

資料6 第20回児童生徒地図作品展について

資料7 岐阜県図書館創立80周年記念シンポジウムの開催について

資料8 国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスについて

資料9 「楽天いどうとしょかん」の運行実績(5・6月分)について

(梶井委員)

「楽天いどうとしょかん」の運行は、平成25年度第2回の図書館協議会において報告を受けていないが、図書館未設置町村が対象でよいのか。県行政からの要請があったのか。

(事務局)

「楽天いどうとしょかん」の運行については、未設置町村を優先するよう楽天に依頼し、本が届きにくい市町も対象にしている。

(小川委員)

情報サービスの抽出について、検索が広範囲でできるのはありがたいが、比較的利用年齢層が高く利用して困るのは、内容に関するデータ少ない。有効な書籍であるか判断しづらいので可能ならば目次の情報が入ってくると良い。今後、専門性の高い書籍が出てくると内容をタイトルだけで判断するのは困難となる。

(委員長)

[質疑、意見等他にないことを確認し、今後のスケジュールについて事務局に説明を求めた]

(事務局)

[今後のスケジュールについて説明]

次回の協議会の開催は、平成27年2月下旬の開催予定。

12月中に日程調整を実施する予定。

(委員長)

「次回の協議会の開催は、来年2月下旬開催を予定している旨周知した。」

[本日の協議事項の審議がすべて終了したことを確認し、午後 3 時 3 0 分に閉会宣言した。]